

## 令和 6 年 1 月～3 月期 地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 6 年 1 月～3 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 409 社 回答率 51.1%）

2 調査期間 令和 6 年 3 月 18 日（月）～令和 6 年 3 月 29 日（金）

### 3 調査結果概要

今期（1 月～3 月期）の前年同期比を見ると、売上高 DI、資金繰り DI は改善、業況判断 DI はやや改善、採算 DI はやや悪化、雇用人員 DI は悪化となった。

来期（4 月～6 月期）の予測については、雇用人員 DI は改善、業況判断 DI、資金繰り DI は横ばい、採算 DI はやや悪化、売上高 DI は悪化している。

数値の推移としては、全体的に前回調査よりも改善、やや改善の回答が多く、資金繰り DI などは全業種にて改善、やや改善の回答となった。ただ、その他の DI 値については業種によって改善・悪化の差が前回よりも激しい。

加えて、各種原材料・エネルギー価格の高騰が続いていることから、引き続き市内企業の動向については注視する必要がある。

○業況判断	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 14.1 \Rightarrow \Delta 12.7$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 12.7 \Rightarrow \Delta 12.0$ ）
○売上高	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 8.1 \Rightarrow \Delta 4.6$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 8.8$ ）
○採算	前年同期比の指標はやや悪化（ $\Delta 7.9 \Rightarrow \Delta 9.0$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 9.0 \Rightarrow \Delta 11.5$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は改善（ $2.0 \Rightarrow 6.8$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $6.8 \Rightarrow 5.9$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は悪化（ $\Delta 0.5 \Rightarrow \Delta 5.4$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 5.4 \Rightarrow 1.0$ ）

問い合わせ先

担当課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課  
電話：072-228-7414  
ファックス：072-228-8816

令和6年1月～3月期  
地域産業経営動向調査  
〔報告書〕

堺 市

〔調査実施機関

堺商工会議所〕

## 調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 6 年 3 月 18 日（月）～令和 6 年 3 月 29 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率	
	建設業	200 社	101 社	50.5%
	製造業	200 社	105 社	52.5%
	卸売業	100 社	50 社	50.0%
	小売業	100 社	52 社	52.0%
	サービス業	200 社	101 社	50.5%
	全産業	800 社	409 社	51.1%

### 【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

### 【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。  
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。  
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

## 調査結果の概観

今期(1月～3月期)の前年同期比を見ると、売上高DI、資金繰りDIは改善、業況判断DIはやや改善、採算DIはやや悪化、雇用人員DIは悪化となった。

来期(4月～6月期)の予測については、雇用人員DIは改善、業況判断DI、資金繰りDIは横ばい、採算DIはやや悪化、売上高DIは悪化している。

数値の推移としては、全体的に前回調査よりも改善、やや改善の回答が多く、資金繰りDIなどは全業種にて改善、やや改善の回答となった。ただ、その他のDI値については業種によって改善・悪化の差が前回よりも激しい。

加えて、各種原材料・エネルギー価格の高騰が続いていることから、引き続き市内企業の動向については注視していく必要がある。

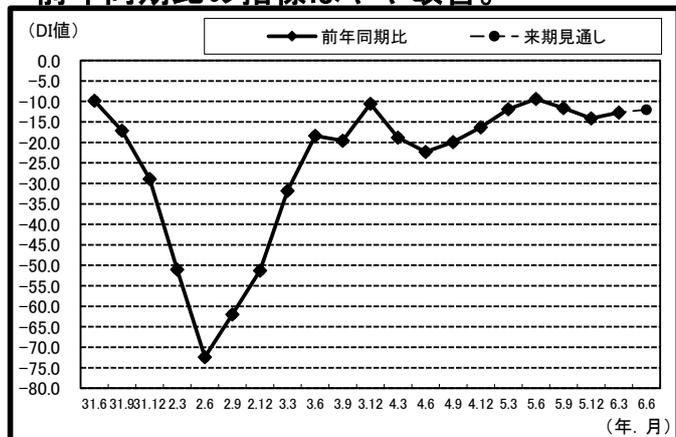
### 1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標はやや改善。  
( $\Delta 14.1 \Rightarrow \Delta 12.7$ )

来期見通しの指標は横ばい。  
( $\Delta 12.7 \Rightarrow \Delta 12.0$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、小売業、サービス業は改善、卸売業はやや悪化、製造業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



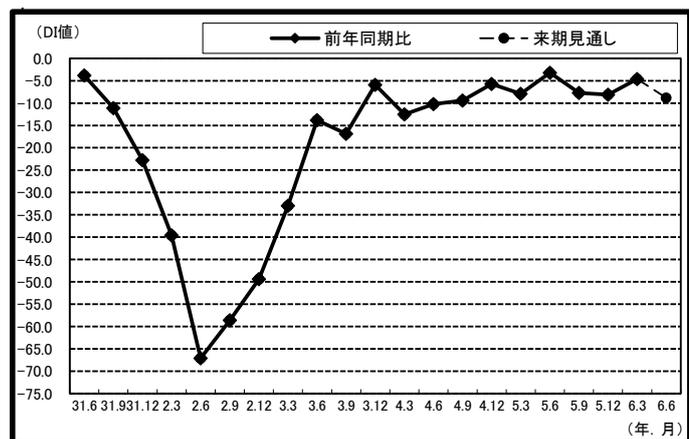
### 2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善。  
( $\Delta 8.1 \Rightarrow \Delta 4.6$ )

・来期見通しの指標は悪化と予測。  
( $\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 8.8$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、小売業、サービス業は改善、製造業、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は改善。



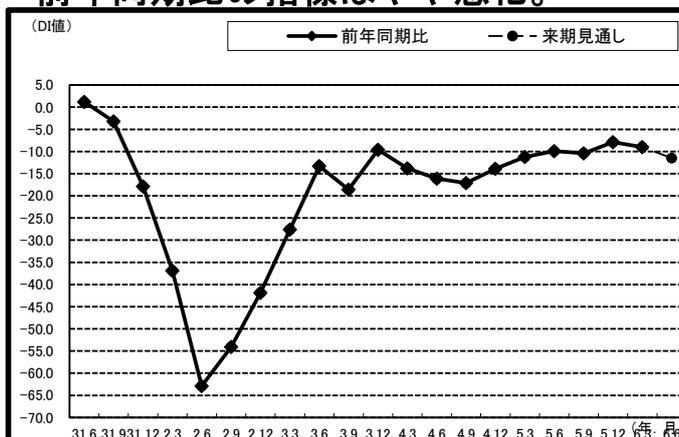
### 3. 採算の動向

・前年同期比の指標はやや悪化。  
( $\Delta 7.9 \Rightarrow \Delta 9.0$ )

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。  
( $\Delta 9.0 \Rightarrow \Delta 11.5$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は改善、サービス業はやや改善、建設業は横ばい、卸売業は悪化、製造業は2期連続で悪化。

#### ・前年同期比の指標はやや悪化。



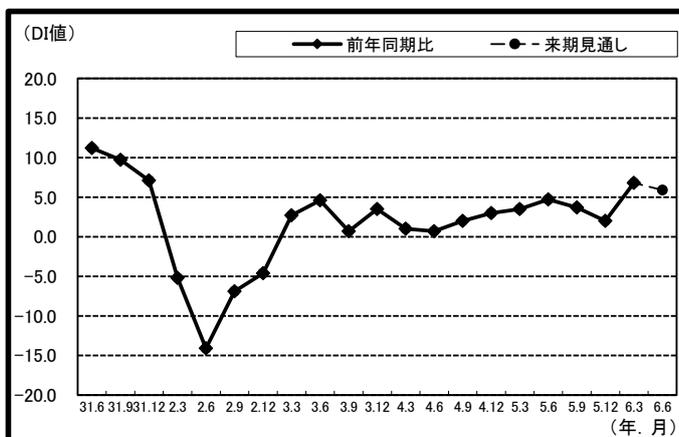
### 4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は改善。(2.0 $\Rightarrow$ 6.8)

・来期見通しの指標は横ばい。(6.8 $\Rightarrow$ 5.9)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、小売業、サービス業は改善、卸売業はやや改善。

#### ・前年同期比の指標は改善。



### 5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は悪化。  
( $\Delta 0.5 \Rightarrow \Delta 5.4$ )

・来期見通しの指標は改善と予測。  
( $\Delta 5.4 \Rightarrow \Delta 1.0$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業はやや悪化、卸売業、小売業、サービス業は悪化。

#### ・前年同期比の指標は悪化。

